

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	呉中央中学校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立呉中央中学校 小川 聡

- 1 目指す児童生徒像
生涯を自ら豊かに学び続け、自他のいのちを大切にして主体的に生ききる児童生徒
- 2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識・技能	思考力, 表現力	主体性
後期	様々な場面で活用することができる知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて、収集した情報を抽象化したり、構造化したりして、解決策(新たな価値)を考え、状況に応じて、適切に表現したり、伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて、自分で目標を見だし、協働して取り組み、様々な場面で実践することができる。
中期	学習過程において活用することができる知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて、情報を多面的・多角的に見たり、根拠を基に理由付けしたりして、解決策を考え、目的や相手によって、効果的に表現したり、伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて、自分の考えを明確にもち、協働して取り組むことができる。
前期	学習に必要な基礎的、基本的な知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて、事象を比較したり、分類したり、関連付けたりして、解決策を考え、分かりやすく表現したり、伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて、興味をもって、自分から取り組むことができる。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

深い学びを実現する授業の創造

－探究的に学ぶことができる生活科・総合的な学習の時間を通して－

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園は、「自分を育てる」を学校教育目標とし、「生涯を自ら豊かに学び続け、自他のいのちを大切にして主体的に生ききるねっこ」を児童生徒に育成することを目指して、豊かな「学び」と豊かな「生き方」を基盤とした教育活動を展開している。

昨年度はこの学園構想のもと、児童生徒に育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力」「表現力」「主体性」の4つに設定し、研究主題を「深い学びを実現する授業の創造 ―探究的に学ぶことができる生活科・総合的な学習の時間を通して―」として、研究を進めてきた。

具体的には、生活科は「気付きの質が高まる学習過程」、総合的な学習の時間は「探究的な見方・考え方を働かせる学習過程」をその研究内容として取り組んできた。

生活科では、子供たちの「気付き」を生み出す授業の組み立てや発想が広がる発問等を意識して指導を行うことにより、深い学びを実現したと思われる児童の姿が随所で見られた。

児童の意識調査では、どの項目においても肯定的回答が85パーセント以上となっており、大きな成果であると考えられる。

資質・能力	質問項目	肯定的回答 (%)
思考力	生活科では比べたり、仲間分けしたり、つなげたりして考えている	92.7
表現力	生活科では自分の考えを分かりやすく表したり、伝え合ったりしている	87.6
主体性	生活科では興味をもって自分から取り組んでいる	94.3

しかし一方で、教職員意識調査では

思考錯誤や繰り返す活動の設定をしたか・・・75%

児童の気付きの質が高まったか・・・61.6%

となっていることが、課題である。

これは、コロナ禍にあつて様々な活動が制限され、これまで通りの活動が十分に行えなかったことが大きな要因として考えられる。

これまでどのような活動を行い、今後どのような活動が必要であるかを整理し、カリキュラムマネジメントを行っていく必要がある。

また、総合的な学習の時間については、主に単元構想及び年間指導計画の修正を行ってきた。

これまでの学習活動にとらわれることなく、児童生徒の思考の流れに沿って、単元構想や年間指導計画を見直していくことで、児童生徒が主体的に考え、活動する姿が少しずつ見られるようになってきた。

児童生徒の意識調査の結果は、以下の通りである。

資質・能力	質問項目	肯定的回答 (%)
思考力	総合的な学習の時間では情報をもとにいろいろな視点から考えたり理由付けしたりして解決策を考えている	89.7
表現力	総合的な学習の時間では自分やグループの考えを目的や相手を意識して表現したり伝え合ったりしている。	86.9
主体性	総合的な学習の時間では課題解決に向けて自分の考えを明確にもって取り組んでいる	88.6

しかし、「課題に対して根拠をもとに予想しているか」というアンケート項目においては、肯定的回答が79.4%となっており、課題であると考えられる。

課題設定場面において、児童生徒が十分に話し合う時間を確保し、自分の考えをもった上で課題解決をすることができるよう、出合わせ方の工夫をしていく必要がある。

また、児童生徒が「考えるための技法」を意識的に用いて思考を深めるところまでには至っていない。

今年度は、生活科・総合的な学習の時間において、全教職員がそれぞれの学習過程における指導のポイントを意識した授業実践を行っていききたい。

児童生徒の情報探索や情報活用、情報発信などにおいては、ICTを積極的・効果的に活用させ、学習意欲の向上につなげていく。

そして、児童生徒がより探究的に課題解決に取り組み、思考を深めていくことができる授業を実現することで、学園で目指す資質・能力を育成していききたい。

4 研究内容

【生活科】

○ 気付きの質が高まる学習過程

(①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する)

- ・ 試行錯誤や繰り返す活動の設定
- ・ 伝え合い交流する場の工夫
- ・ 振り返り表現する機会の設定
- ・ 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする工夫

【総合的な学習の時間】

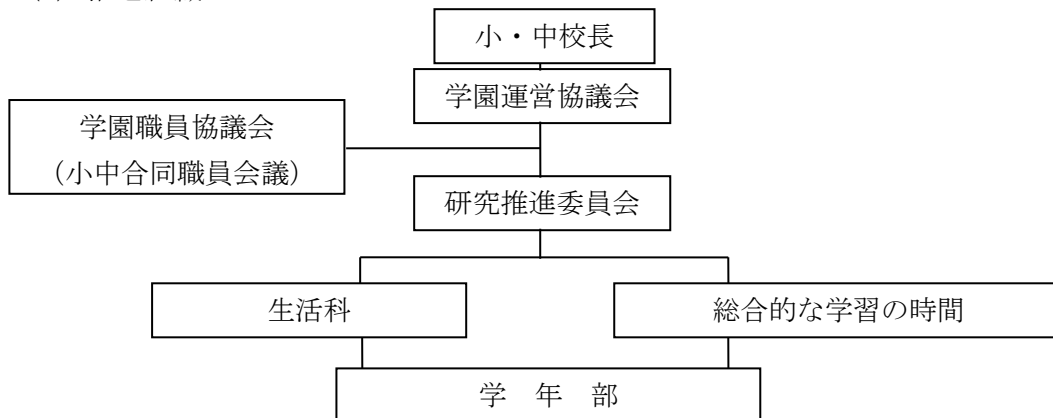
○ 探究的な見方・考え方を働かせる学習過程

(①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現)

- ・ 出会わせ方の工夫 (課題設定)
- ・ 目的を明確にした情報収集 (情報収集)
- ・ 「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールの活用 (整理・分析)
- ・ 明確な相手意識・目的意識 (まとめ・表現)

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・ 第6学年 体育科 (2学期実施)
- 国語科 (3学期実施)
- 算数科 (3学期実施)
- 外国語 (1, 2学期実施)
- ・ 第5学年 音楽科 (1, 2, 3学期実施)
- 国語科 (3学期実施)

算数科 (2学期実施)
外国語 (2, 3学期実施)

(小→中)
・中学校の補習授業 (夏期休業中に実施)

イ 小学校教科担任制等

第6学年 (理科・家庭科) (交換授業 図画工作⇔音楽)

第5学年 (理科・家庭科)

第4学年 (理科・書写)

第3学年 (理科)

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

【生活科】

- 児童の多様性を生かし、試行錯誤や繰り返す活動を設定することで、気付きの質が高まり、深い学びを実現することができる。

【総合的な学習の時間】

- 課題設定を工夫し、「考えるための技法」や思考ツールを効果的に活用することで探究的な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現することができる。

(2) 検証方法

- ・児童生徒の具体の姿 (変容)
(発表・話し合い・学習や活動の状況など)
- ・児童生徒の記述や成果物の分析
(ワークシート・ノート・ポートフォリオ・絵・プレゼンテーションなど)
- ・評価カードや学習記録などによる自己評価や相互評価
- ・意識調査の推移 [5月, 12月]
- ・全国学力学習状況調査 [5月] の分析

7 推進計画

月 日	内 容
6月 7日 (月)	「学びの変革」に係る研修① 理論研修
6月29日 (火)	授業研究Ⅰ (小学校) 講師 安田女子大学 教授 朝倉 淳
10月 8日 (金)	授業研究Ⅱ (小学校) 講師 安田女子大学 教授 朝倉 淳
11月16日 (火)	授業研究Ⅲ (小学校) 「学びの変革」に係る研修② 講師 安田女子大学 教授 朝倉 淳
1月18日 (火)	授業研究Ⅳ (中学校) 講師 安田女子大学 教授 朝倉 淳

2月 9日 (水)	「学びの変革」に係る研修③ 次年度の授業改善に向けて
3月16日 (水)	1年間のまとめ

8 その他

- ・小中一貫だより(年2回発行)